



みやぎアピール大行動2022 実行委員会

News

発行／みやぎアピール大行動実行委員会事務局
メール：appeal318@hotmail.co.jp

2023.7.21. FRI No.62

みやぎアピール大行動実行委員会
“今すぐできることの具体化を考えてほしい”
「仙台市への障害福祉施策に関する要望書」郡仙台市長に提出



7月14日（金）県内39の障害者団体などをつくる「みやぎアピール大行動実行委員会」が郡市長との面談を行い、市障害施策の拡充を求め要望書を提出し30項目に及ぶ要望の実現を求めました。当日は、アピール実行委員会から17名が参加、郡仙台市長他担当部局10名が対応しました。毎年行われている仙台市長都の面談で要望書提出は今年で16回目となります。当事者からは、カフェアシスト利用及び訪問入浴事業の利用拡充、障害のある子どもの普通学級継続の訴え、投票所における障害者への対応について3者が市長へ直接訴えました。郡市長からは一人ひとりの訴えについて答え「さまざまな声を聞いて取り組みを進めたい」と述べ会場を後にしました。市長退席後には担当課との懇談が行われ、災害時医療連携や市障害者差別解消条例等々、具体的な改善を求めての1時間を越える意見交換が行われました。

私たち抜きに
私たちのことを
決めるな！

この言葉は今やしょうがい者だけでなく、様々な当事者運動で聞かれるようになりました。自身の思いに反して学ぶ場所、暮らす場所、生き方も決められている人々の切なる叫びです。しょうがいを持ちながらも、「自分らしくあること、生きること」を求めて、あたりまえに生きることをあきらめずに差別や偏見と闘いながら地域で暮らしてきた人々がいます。そうした地域生活を長年続け、同じくしょうがいを持つ人々の地域生活を支援されてきた木村英子さんをお迎えし、これまでの差別や偏見との闘いについて伺います。そして木村さんも目指す“しょうがい者があたりまえに生きられる社会”をどのようにつくっていくのか、ともに考えたいと思います。

9月3日① 大集会

第一部 講演 木村 英子さん

👋 手話通訳 / 📝 要約筆記

申込み不要 資料代: ¥500

第二部 当事者アピール

13:00~15:40
せんだいメディアテーク
オープンスクエア

(仙台市青葉区春日町2-1)

大行進
16:10~

しょうがい者があたりまえに生きられる社会へ みやぎアピール大行動2023



講師 木村 英子さん

(参議院議員・自立ステーションつばさ事務局長・全国公的介護保障要求者組合組合員)

講師プロフィール

生後8か月の時にしょうがいを負い、幼少期のほとんどを施設と養護学校で過ごす。重度しょうがいしゃは、家族が介護するか、施設しか生きる場がないという状況の中で、同じく重度しょうがいしゃで自立して地域で生きている三井絹子らの存在を知り、地域で生活することを決意。19歳の時に東京都国立市で自立生活をはじめ。1994年、多摩市でしょうがいしゃの自立を支援する「自立ステーションつばさ」を設立し、地域で生活したいと望むしょうがいしゃの自立支援を行うかたわら、全国公的介護保障要求者組合の書記長を務め、重度しょうがいしゃが生きにくい社会を改善するために、厚生労働省や東京都を相手に仲間と共にしょうがいしゃ運動を続けている。多摩市障がい者基本計画等策定市民委員会委員などを歴任し、2019年参議院議員選挙にて当選。

(木村英子ホームページより抜粋・一部編集)

